



TITLE:

新刊[即]報

AUTHOR(S):

CITATION:

新刊[即]報. 地球 1932, 17(4): 318-319

ISSUE DATE:

1932-04-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/184023>

RIGHT:

大きな繪が壁に掛つて居りピアノが据えつけられてゐた。小さい食堂には織物の壁布が張りつけられテニスン・カーライル兩文豪の圓形浮彫の像がブラウニング自身の像と共に壁にかかつて居た。塑像及び習作を置き飾られてある長い部屋はブラウニング専用の部屋であり、大きな居間は夫人が常に居つた部屋である。室内の光線は壁掛けと木彫の額の昔の聖人等の像とによつて柔げられた。戸口近くには長い安樂椅子があり小卓には書籍新聞その他執筆の材料が載せられてあつた。同彫刻家の印象では夫人を知ることとは夫人を愛することであると思へる程に夫人は不思議に魅力をもつてゐた。美人の容貌とは云へないが表情に氣高い美があつたと云ふ。

米國の作家ホーソン (Hawthorne) 夫妻はカサ・ギヂの一夜を述べてブラウニング自身に見受けられる明敏なる頭と常識的な話振りと熱心と眞面目とを述べてゐる。以上述ぶる處によつて明なるが如くカサ・ギヂの家に於ける兩詩人の愛の巢は殊に夫人が生前持つてゐた伊太利

愛によつて永久に記念さるべきものである。

新刊即報

○比 叡 山

昭和七年二月發行 (非賣品)

井上敬道編

京都の精華高等女學校で郷土教育の材料として本書を編成された、四六版三一九頁の冊子で、地圖や挿圖が多い、目次をみると歴史篇、地理生物篇、文學篇の三部から成立ち比叡山と京都との關係、佛教の中央根本道場としての延暦寺、それから僧侶と武家さういつた歴史の外に、地質構造、氣象をのべ叡山植物をはじめ、叡山小鳥、溪流動物、泡吹虫、石跳虫、陸産貝等珍らしい動物が文學的に詳述されてゐる。井上君が博物の先生であつて特に文學に興味のふかい人であるだけに、文學的趣味の豊かな本になつた、猶文最後に叡山について古の文學者、明治から現代へかけての文學者の巨篇小什を集めてあるのもかうした郷土志としてよい思ひつきである。土地の好學者が、自らの郷土を天下に紹介するものゝ上乘なものとして本書の發刊を祝する(藤田)

○萬集地理考

豊田八十代著 大岡山書店

定價三圓八十錢

本書は萬葉集に現はれてゐる地名のすべてについて、その所在と説明とを加へたもので四六版三七四頁に達する。附録

に萬葉地圖十葉をつけ、本文の外に寫眞十八葉、索引がある外、著者の吉野離宮考がつけてある、氏は近頃有名な宮瀧でなくて丹生川上にあるといふ吉田神社宮司森口氏の説をとつてゐられる、其他の地名については古來の定説と考へらるゝものを網羅しつくされてゐる、古代地理志を學ぶ人にこよなき參考書であると信じる。(F)

○滿洲事變と不戰條約、國際聯盟

松原一雄著
丸善出版 定價一圓五十錢

國際聯盟の取扱つた滿洲事變といふものゝ今日までの經過と諸外國の動きをしるした著述である、キハモノといへばいへるが、滿洲は我國防の生命線であるから、かうした著述は時にとつて、正に精讀されねばならぬと思はれる、歴史家のみではない、地理學者も常に國際政局の動きから目を放さないのが現世であるからである。(F)

○地理學概論

遠藤金英著 教育研究會發行
定價二圓五十錢

學習院教授遠藤學士の近什である、自然地理學前編には宇宙に於ける地球、後編は地球の形狀、内部、地方時、地圖の類をしるしつぎに陸地の形狀分布、地形の變化に及び、海洋大氣、生物を略序し、人文地理學では自然と人類世界の住民聚落、有用植物、動物、礦物、交通、國家等に及んで、經濟地理を包容してゐる、菊版二四八頁であるから手頃な參考書である、師範學校の補習教育などに好い讀本だと思はれる。

叙述平易で要項を列舉してあるのが、さうした教科書として都合のよい點であらう。(藤田)

雜報

○イタリーの絹業中心地

イタリーの絹工業は其起源古く、フロレンスのダマスコ織、ヴェニススのレース織、ゼノアの天鵝絨は歐洲の名物として文藝復興時代以後今日に及んでゐるが、十九世紀の後半に至り、機械使用の時代となつたので、ミラノ近郊のココモ湖畔を中心としてイタリーの絹業は一大進歩をとげた、さうして従前安値の普通織物にかはつて上等品がコモコから出るやうになつた、即リボン、絹メリヤス、絹靴下等を除いて、立派な絹工場は約二百ある職工約四萬人(大多數は女工)織機約二萬四千臺、手織機臺三千、このうちコモコはその三分二を占める、染色、型附、練上等の工業がこれに伴生し、コモコにはこのために新式大工場が續出して約六億圓生糸の使用料一ヶ年八十萬冠、屑糸二千二百五十冠、人絹糸八百萬冠を消費してゐる。

婦人服地は其重要なもので、大戦前は原地であつたが近頃は薄地が流行した、工場も専門的になりだした、捺染では婦人服、芝居衣裳及裝飾布であるが、一九一八年までは手工業であつたが、以後コモコ附近に機械染が出来だした其總産額は四千萬圓である。イタリーのネクタイは世界流行の魁をな